

専門科目【生涯発達看護】

授業科目名	生涯発達看護特論Ⅰ <i>Advanced Studies in Nursing across the Lifespan I</i>					担当教員	姫野 稔子、中村 光江 大重 育美、永松 美雪 原田 紀美枝 梶原 弘平				
開講年次	1年前期	セメスター	1			時間数(単位数)	30(2)				
必修選択	専攻領域必修	授業形態	講義			使用教室					
授業の目的	看護の対象者を生涯発達の観点で捉え、各期に生じる健康問題と生活への影響、それらの援助に必要な概念、諸理論、アセスメントについて探究する。										
到達目標	1. 生涯発達に関する理論・概念を理解できる 2. 発達各期に関する理論・概念・ケアモデルが理解できる 3. 発達各期における理論・概念・ケアモデルを用いて、看護の対象の健康課題を包括的にとらえることができる										
DPとの関連	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	DP6(保健)	DP6(CNS)	DP7(CNS)	DP6(助産)	DP7(助産)	DP8(助産)
	○	◎			○						
授業計画	【生涯発達に関する理論・概念】 1回 ライフサイクル理論(姫野) 2回 発達課題論(大重) 3回 心理社会的発達理論、社会文化認知理論(永松) 4回 行動変容理論(中村) 5回 家族発達理論(大重) 6回 役割理論(原田) 【発達各期の理論・概念・ケアモデル】 7回 セクシュアリティにおける発達課題と健康課題(永松) 8回 病みの軌跡理論(中村) 9回 社会的学習理論(姫野) 10回 病気の不確かさ理論(原田) 11回 アイデンティティ生涯発達論(大重) 【健康課題とアセスメント】 ※12～15(姫野・中村・大重・永松・原田・梶原) 以下は大学院生によるプレゼンテーションおよびディスカッション 12回 発達各期における理論・概念・ケアモデルを活用した健康課題とアセスメント(1) 13回 発達各期における理論・概念・ケアモデルを活用した健康課題とアセスメント(2) 14回 発達各期における理論・概念・ケアモデルを活用した健康課題とアセスメント(3) 15回 発達各期における理論・概念・ケアモデルを活用した健康課題とアセスメント(4)										
学習方法	生涯発達・発達各期に関する理論等の講義・ワークシートを用いた演習に加え、発達各期の事例課題より、適切な理論、概念などを用いて、患者の健康課題を包括的に検討し、より効果的なアセスメントや看護についてプレゼンテーション、ディスカッションを行う。										
オフィスアワー	以下の時間帯およびメールでのアポイントメントにて設定します。 姫野：金曜日の昼休み, t-himeno@jrckicn.ac.jp 中村：火曜日の昼休み, m-nakamura@jrckicn.ac.jp 大重：火曜日、水曜日の昼休み, n-ooshige@jrckicn.ac.jp 永松：火曜日の昼休み, m-nagamatsu@jrckicn.ac.jp 原田：水曜日の昼休み, k-harada@jrckicn.ac.jp 梶原：水曜日の昼休み, k-kajiwara@jrckicn.ac.jp										
テキスト	特に指定しない										
参考文献	佐藤栄子：中範囲理論入門(第二版)。名古屋，日総研出版，2009。 野川道子編：看護実践に活かす中範囲理論 第2版。メジガルフレンズ，2016。 筒井真優美：看護理論家の業績と理論評価。東京，医学書院，2015。										
評価方法	授業への参加度・ディスカッション(50%)、プレゼンテーション(50%)										